

「富富富」の技術対策について

平成31年4月18日

農業技術課 広域普及指導センター

○ 当面の栽培管理のポイント

(1) 育苗管理

【ポイント】

- 播種量は乾籾 120g/箱のうす播きを徹底し、健苗を育成する。
- 育苗日数は18～22日を目安とする。
- 育苗作業およびハウスの温度管理は、従来の管理に準じて行う。
- 「富富富」の苗は、「コシヒカリ」に比べて草丈および第1葉鞘長が短く、葉齢は同程度である。

- ① 播種量は乾籾 120g/箱のうす播きを徹底し、健苗を育成する。
- ② 育苗日数が長く葉齢の進んだ老化苗を移植すると、初期分けつの発生が少なくなる。活力の高い苗に仕上げるため、育苗日数（播種日から田植日）は18～22日程度を目安とする。
- ③ 「富富富」は、「コシヒカリ」に比べて芽の伸長速度が遅いので、「コシヒカリ」に比べて1～2日長く浸種する。また、浸種開始時の水温を適温（12.5℃）で行うとともに、播種作業前に芽出し程度が「ハト胸」～2mm程度であることを確認する。
- ④ ハウスの温度管理は、従来の管理に準じて行う。
- ⑤ 「富富富」の苗は、「コシヒカリ」に比べて草丈および第1葉鞘長が短く、葉齢は同程度である。近年、育苗期間が高温で推移することが多いことから、積極的に換気を行い、がっしりとした苗質に仕上げる。

表1 育苗計画の目安

浸種日	播種日	田植日	育苗日数
4/6頃	4/18頃	5/10	22日
4/14頃	4/25頃	5/15	20日
4/22頃	5/2頃	5/20	18日

種子の休眠がやや深い
ため、浸種～播種の日
数はやや長めとする。

表2 育苗期間中の温度管理の目安

苗のステージ	出芽期	緑化期	硬化期
育苗日数	3日	2～3日	13～15日
温度	昼	30℃	
	夜	30℃	
		25℃以下	10℃以上

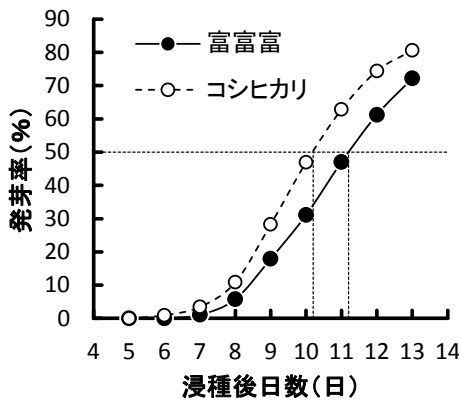


図1 H30年産種子の発芽率の推移 (H31広域)
注) 県内4生産者の種子を用い、14.7℃に浸種した条件で調査

草丈、第1葉鞘長、乾物重は「コシヒカリ」の90%程度、葉齢は「コシヒカリ」と同程度。

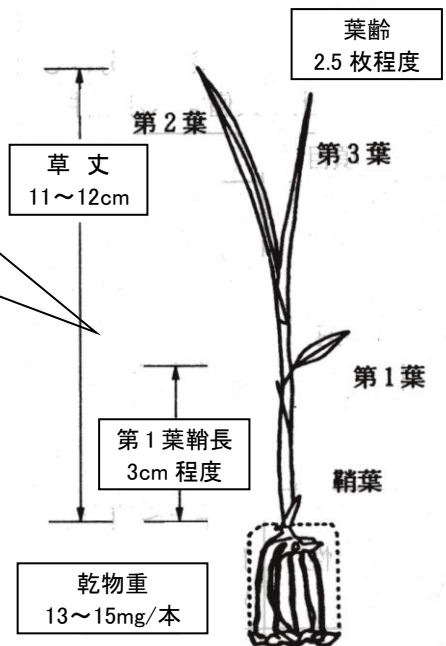


図2 目標とする苗質

(2) 田植時期

【ポイント】

○安定した食味や収量を確保するため、田植は5月15日を中心（5月2半旬～4半旬）に実施する。

- ・5月1日頃の田植は、味度値の変動が大きく、田植時期が遅いほど味度値が高く安定する。
- ・玄米の外観品質は田植時期に関わらず安定しているものの、田植が遅い場合は、乳白・心白粒や青未熟粒がやや少なくなる傾向がある。
- ・5月1日頃～5月16日頃の田植の範囲内では、「コシヒカリ」と同等の収量を確保することができる。
- ・以上のことから、田植は5月15日を中心（5月2半旬～4半旬）に実施する。

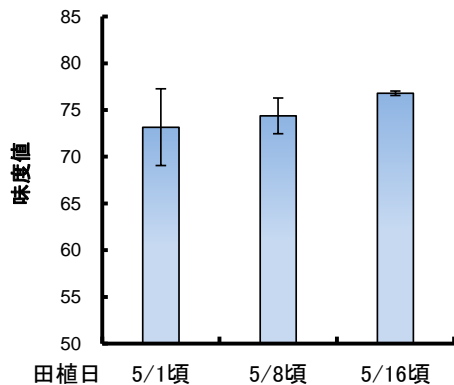


図3 田植時期と味度値の関係(H28～30農研)

注) 3か年の平均値で、図中の縦線は標準偏差を示す。
図4も同様

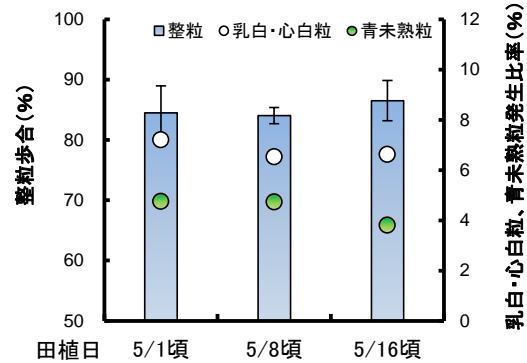


図4 田植時期と玄米外観品質の関係(H28～30農研)

(3) 栽植密度

【ポイント】

○目標穂数(400本/m²)を確保し、1穂粒数を過剰にしないために、栽植密度は70株/坪以上とする。

- ・栽植密度が大きいほど初期生育の確保が容易となり、穂数が多くなる。
- ・栽植密度50～60株/坪では、1穂粒数が多く、くず米や青未熟粒が増加する。
- ・以上のことから、目標穂数400本/m²に誘導するために、栽植密度は70株/坪以上とする。

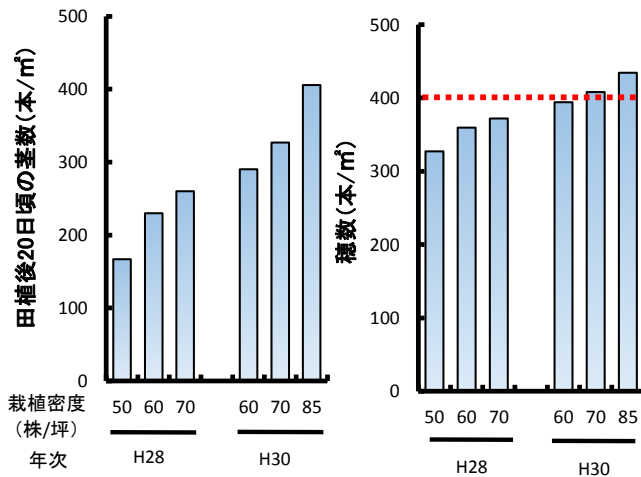


図5 栽植密度が初期茎数および穂数に及ぼす影響(農研)

注) H28 5/18 移植・分施肥体系 H30 5/14 移植・全量基肥体系

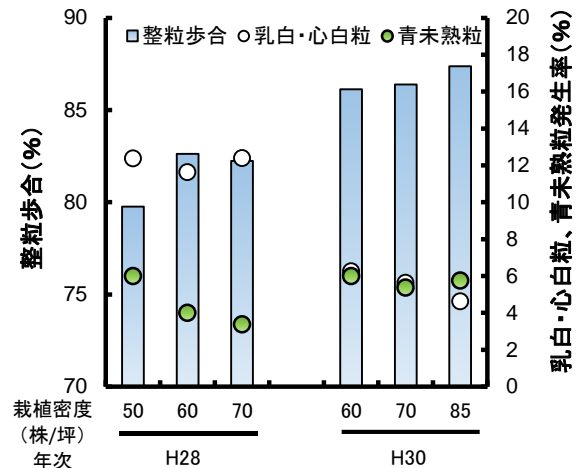


図6 栽植密度が玄米外観品質に及ぼす影響(農研)

(4) 施肥

【ポイント】

- 目標籾数30,000粒/m²に誘導するとともに、玄米蛋白含有率を目標値6.4%以下に抑えるために、全量基肥栽培、分施肥栽培ともに、窒素施用量は「コシヒカリ」の地域慣行量の2割減とする。
- 沖積粘質土・洪積土でもコシヒカリ慣行施肥窒素量の2割減肥を基本とする。

<全量基肥栽培>

- ・富富富専用基肥一発肥料による全量基肥栽培では、玄米蛋白含有率を目標値6.4%（水分15%換算値）以下に抑えるために、コシヒカリ慣行施肥窒素量より2割の減肥を基本とする。なお、地力が高い地域やほ場では、減肥程度を高くする。
- ・「富富富専用全量基肥肥料」をコシヒカリ栽培時の2割程度減肥しても、籾数・収量が確保される。また、玄米品質についても良好である。

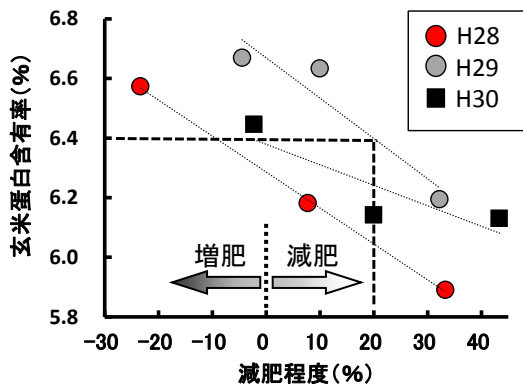


図7 全量基肥栽培における減肥程度*と玄米蛋白含有率との関係(農研)

注) *コシヒカリ栽培時の慣行施肥窒素量に対する削減割合を示す。
※農研のコシヒカリ慣行施肥窒素量は9kg/10a

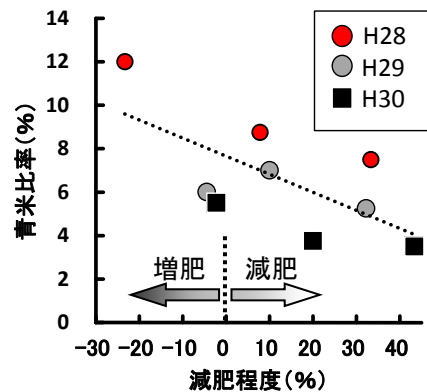


図8 全量基肥栽培における減肥程度と青米比率の関係(農研)

<分施肥栽培における基肥施用>

- ・目標籾数30,000粒/m²に誘導し、高品質な「富富富」を生産するため、分施肥栽培における基肥窒素施用量は地域慣行「コシヒカリ」の2割減とする。

(5) 病虫害及び雑草防除

【ポイント】

- 化学合成農薬（殺虫殺菌剤及び除草剤）の成分使用回数を12以内（県慣行レベルの3割減）とする。

表4 農薬削減の考え方の例

農薬の使用時期	削減の考え方の例
種子消毒	温湯消毒や生物農薬の活用による削減
苗箱施薬	「葉いもち」の予防剤は削減可能
除草	適切な水管理の徹底で雑草を抑制し、薬剤を削減 有効成分の少ない薬剤への変更 など